

令和元年度 第1回北広島町総合教育会議 会議録

1. 日時： 令和元年10月28日（月） 14:00～15:15

2. 場所： 北広島町役場町長室

3. 出席者： 北広島町長 箕野 博司
北広島町副町長 中原 健
北広島町教育委員会 教育長 池田 庄策
委員 菅川 知由
委員 長田 克司
委員 益田 英樹

(事務局) 総務課長 畑田 正法
総務課総務係長 田村 智行
教育委員会事務局
生涯学習課長 西村 豊
学校教育課長 石坪 隆雄
学校教育課学校総務係長 国吉 孝治
学校教育課学校指導係 藤田 一友

4. 欠席者：教育委員会委員 甲斐 徳子

5. 会議録署名者：益田 英樹

6. 協議事項：

北広島町義務教育振興プラン（教育振興基本計画）の策定について

7. 会議の概要

○開会

○町長あいさつ

○協議事項

北広島町義務教育振興プラン（教育振興基本計画）の策定について

○閉会

(総務課長)

それでは、皆さんお揃いになりましたので、ただいまから令和元年度の第1回目の総合教育会議をはじめさせていただきます。それでは、開会にあたりまして箕野町長がご挨拶を申し上げます。

(町長あいさつ)

今日はこの総合教育会議にお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。また教育委員の皆様には教育行政につきまして日頃から多大なるご尽力をいただいておりますことに対し感謝を申し上げます。

今年度、この総合教育会議は第1回目ということになるわけですが、今日は北広島町義務教育振興プランの策定について、10カ年の計画を協議をしてご意見等いただければと思っております。ど

うぞよろしくお願いいたします。

(総務課長)

それでは、座って説明をさせていただきます。早速議事の方に入れていただきますが、その前に議事録署名者ということで今回は益田委員さんの方にお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。それでは議事の方に入らせていただきます。議事の進行につきましては町長が議長を務めるということになっておりますので町長よろしくお願ひいたします。

(町長)

北広島町義務教育振興プラン(教育振興基本計画)について事務局の方から説明をお願いします。

(石坪学校教育課長)

それでは失礼します。さきほど話がありましたように今年度、北広島町義務教育振興プランを策定するというので、9月から5回ほど、検討委員さんにお集まりをいただき検討をしていただいております。第1回目が資料にありますように9月21日に第1回の検討委員会を開かさせていただきました。それで教育長の方から諮問、そして策定方針等を検討していただき策定方針あるいはスケジュール等を報告をさせていただきます。北広島町義務教育振興計画の現状及び課題というのがありますけれども、今からこれを説明させていただきます。それから第2回目に10月19日に義務教育の課題あるいは義務教育の方向性ということで資料は出しておりませんが、検討委員さんの方にこれから10年でどんな子どもを育てたいかということを検討をしていただきました。それで義務教育の方向性ということでまとめさせていただきますが、まだこれは案でございますので、こんな方向でいったらどうだろうかということ、今日ご説明をさせていただきます。それで現状と課題を説明をさせていただいた後、義務教育の方向性についても説明をさせていただきます。その後、教育委員さん、町長さん、副町長さん含めてこの内容について、ご意見をいただきながら議論をしていただければと思いますのでよろしくお願ひをいたします。それでは藤田と国吉の方から教育振興計画の現状及び課題についてご説明をさせていただきますのでよろしくお願ひします。

藤田(学校指導係)

1番基礎・基本の学力の定着・向上でございますが、基本的には30年度、31年度ともに全国平均よりも県平均の方が広島県ではいい。県平均になると数値が悪くなるのですが、全国平均は上回っている状況です。ただ若干中学校の英語は3年に一回調査がありますが、今回その年でありましたが、ここの数字だけは課題が残っているかと思いますが、数学、算数、国語、理科に関しては上回っている状況と捉えております。2番にいきます。

家庭・地域における教育力の強化、学校との連携強化ということでございます。アンケート調査を行っております。項目の8「学校は、基本的な生活習慣が身に付く取り組みを継続的に行っている」この質問に対して、平成29年から3年間の数字ですが、81%、84%、84%という風に少しずつ上がってきております。項目17「子供に基本的な生活習慣が定着してきている」これに関しては平成29年が72%だったのに対して30年、元年が74%こちらも少しずついい方向に向かっていると思っております。ただ保護者の養育態度の課題と以前にはなかった課題が最近ではみられるようになってきておりますので対策も難しい部分もでてきていると考えております。

それからコミュニティ・スクールの実施地区を増やし、学校、家庭、地域との連携強化に取り組んでおります。現在のところコミュニティ・スクールとしては豊平地区は豊平小中学校、大朝地区は大朝小中学校、壬生小校区という風になっておりますが、今後もコミュニティ・スクールの取り組みは広げていくという計画でございます。3番です。

郷土を愛し、地域を担う人材の育成として、「将来北広島町に住みたい」というこの質問が続けてきておりますが、平成29年、30年が37%、元年が36%ということで4割弱で推移していると思います。ポイントというのは地域の魅力、将来の可能性、明るい見通しを児童生徒が持って欲しいということです。それに対して北広島町は「ふるさと夢プロジェクト」を推進しております。先ほどのコミュニティ・スクールの成果として、そこに向かっての制度であります。ここ数年は横這い傾向で変化がございません。学校間の格差、地域間の格差は多少はあるかと感じております。コミュニティ・スクールの課題ですが、学校の独自性にゆだねるところではありますが、適切にコーディネートできる人材や機関がなかなか少なく、発展性というものに対して課題があるなという地域もあります。4番でございます。

保・小・中・高の連携教育の推進でございます。芸北、大朝、千代田、豊平各ブロックともこの連携の大事さはしっかりと認識をしていろいろ具体的に、例えば芸北地区であれば、小中一貫校長会を月一回開催したり、中学校0学期とって6年生の3学期、中学校の1学期ではなくその前の0学期として、中学校に行って一日体験をするという形のことをやっているとか、千代田地域、大朝地域では、保小中一斉ボランティア清掃活動を行ったりしております。課題としては協議の質の向上、日常的な交流の推進に取り組む必要がある。5番目にいきます。

豊かな心、健やかな身体、たくましく生きる力の育成ということでございますが、道徳教育の部分に関してですが、項目18「子供は、優しい心、感謝する心など、道徳的な心情や態度が育ってきている」それに対しての29年度からの推移を載せておりますが、29年度が77%に対して、30年度31年度が78%、やや上がってきていると思っております。大きく違うのは、教科書があるということ、それから評価が入っているということ。成績表につける1.2.3の評価ではなく子供たちの学びを認めて励まし、ここは伸びているからもっと頑張る教師が示して返していくものになるのですが、まだまだ定着しきっていないところがあります。この道徳観の評価の質の高まりというのが子供の道徳性の高まりにも繋がっていくのかなと力をいれて克服していかなければいけないという風に考えております。次に体力テスト、運動能力調査でございます。昨年度の全国平均値、県平均値を大きく上回って、県内23市町で男子が10番目、女子が1位、中2の方も男子が9位、女子が2位、女子がかなり上回っている町。平均としては高い位置にあると思っておりますが、数値というのは年度ごとに変動します、子供によって変わってきますし、種目によっても変動がありますので、総じてこれが苦手とか得意ということはないのですが、その時々の実態に即した活動を取り入れていくことが必要かと思っております。生徒指導面ですが、現状としてまず不登校数ですが、新規の不登校者数の減少というものを課題で取り組んでおりますが、7月現在でございますが30年が22人、本年度は15人に減っています。新規の不登校の子としては1名だけです。これは例年に比べて少ないと思っております。これは引き続きしっかりと保護者との連携を図っていかなければいけない部分と思っております。ただ数字としては平均よりは多いと思っております。それからいじめですが、いじめゼロはなかなか難しいじゃなくて、学校としてはいじめ見逃しゼロというのを掲げて積極的に認知してこうと、これくらいはいじめじゃないよではなく、当該児童生徒が嫌だな不快だなと感じたらそれはいじめですというところでほんとにいじめの小さな芽の段階で潰していこうという取り組みが

進んでおります。そこに認知件数を書いております。30年13件、元年が12件と書いてございますが、もうちょっと詳しいところ平成29年度は認知件数が6件、それからするとかなり30年31年度というのは、増えてきているかなと思います。これははじめが増えたということではなくて、先生たちのはじめを見抜く目が肥えてきたという風に捉えております。それから暴力行為でございませうが、積極的認知と指導を行うことによって大きくならない内にしっかりと指導していきたいという風に考えておりますが、こちらは30年が17件、今年が12件という風になっております。6番です。

これはかなり大きなウェートを占めてきております特別支援教育の充実でございます。特別な支援が必要とする児童生徒の数が年々増えている。ニーズの増加と実態の多様化しております。これに対しては環境面、人的な確保が必要になってくると思っております。学校としては現在、各関係機関との連携を図りながら、専門的な助言を受け指導方法の工夫や対応、支援が必要な子には一人ずつ個人的な指導方法、計画表が作られるような状態でございます。7番です。

学校経営の基盤強化でございます。「学校は、学校の取組・子どもの様子について、積極的に情報公開している」という質問項目がありますが、これに対しては9割近くがその通りであると肯定的な評価をしていただいております。さらに広く地域と協力して地域に開かれた学校を推進していくということが大事かなと思っております。8番です。

中学校教育の特色づくり・魅力づくりということでございますが、千代田中学校において「きたひろしま JOB トライアル」という活動を行っております。年間を通して地元企業、事業所での職場体験、参加される事業所が中学校に対して、こんなことがあるから何人今度中学生に来てほしいと依頼をし、そこに子供たちが応募をして実際に体験活動をしていくという活動でございますが、年々事業者数、参加生徒数ともに増加しているという傾向でございます。さらに拡張して自己の将来の生き方を考える体験活動の中心にしていきたくと考えております。平成30年度より外国語アップグレード事業として、3年計画で全ての英語担当教員の研修を行ってきております。現在のところ英語担当教員の3分の2が受講完了または受講中ということになっております。授業改善による生徒の学力の向上が課題となってきております。9番です。

教職員の資質・指導力の向上でございます。授業改善の取り組みが推進されているということは、芸北支所の訪問記録からもみてとれるのですが、まだまだ個人差、学校差が激しいかなと考えております。国としては子供たちの主体的で対話的で深い学びを実現していこうというキーワードを掲げておりますが、まずは先生方がそういう学びが本当にいいものだと思えない限りは広がらないと思っておりますので、町主催の研修に関しては、企画運営を複数の教員がチームとして行って、自分ら主体的な学びの場とすること、これに取り組んでいます。こういうことを地道に行うことによって指導力の全体的な底上げを図っていきたいという風に思っております。校内研修はまだまだ指導、伝達のスタイルが主流かなと思っております。ここから抜けきるためのアイデアというものも教育委員会を出していかなければいけないと思っております。

国吉（学校総務係長）

10番につきまして私の方から説明させていただきます。

学校施設の整備と学校規模の適正化ということで、学校施設の整備の面ですが、現状としましてはこれまで実施してきました校舎新築及び改修、新耐震基準制度の導入前に建てられた施設の耐震補強工事、これらを実施したことによりまして、校舎につきましては耐震化率100%を達成してい

るという状況でございます。今後の課題としまして学校施設につきましては、利用するすべての人にとって、安全・快適に過ごせる空間であることが望ましいということから、今後作成を予定しております学校施設長寿命化計画によりまして施設の延命を図っていく必要がある。特に老朽化が著しい施設、老朽化はしてないんですが度重なる修繕が必要となっている施設がございますので、そうしたものを中心に実施していくことが必要であるという風に考えております。

学校規模の適正化の部分にあたります、現在小学校9校、中学校4校、クラス数は1学年1学級、現状の計画でそういう基本としております。千代田中学校につきましては、3年が2クラス、2年、1年は3クラス、小学校3校においては複式学級があるというのが現状でございます。今後、児童数生徒数が減少していくことが予想される、人口ビジョンの推計等でもそういった予想が出ております。そうした中で老朽化する施設の今後の方向性、これらの前提を踏まえながら学校の適正規模、適正配置を検討していく必要があるという風に考えております。これともう一点、学校給食につきましては芸北、大朝、豊平地区はそれぞれ一カ所ずつ給食センターまたは給食調理場として給食を提供しております。千代田地区につきましては、小学校全5校が自校給食を提供している状況でございます。今後千代田地区の各給食センターと老朽化著しい大朝給食共同調理場、さらに豊平の給食センターを含めた新たな給食センターの建設を検討していければという風に考えております。

11番になります児童・生徒の安心と安全の確保です。毎月2日を安全の日と定めまして、児童生徒の安全・安心を常に意識付けをしております。町教育推進構想に「安全文化の追求」を位置づけ、各校の事態に応じた安全指導、防災教育を実施しております。

先ほどありましたように基本的な生活習慣の記述にありますように、基本的な生活習慣については、学校の取り組みが概ね成果をあげつつあるということから、地域の教育資源を生かした学習や教育環境づくりに取り組んでいるという状況であります。課題としましては、交通安全教育、防災教育等、年間計画に位置付けが実施してありますが、地域住民とともに命を守る教育の充実に取り組む必要がある。引き続きこれに取り組んでいくということが、今後の課題として挙げております。以上でございます。

(町長)

北広島町の義務教育振興計画の現状及び課題ということで協議をしてもらっているわけですが、質問ご意見等あればお願いしたいと思います。

これから10年先までに制定となれば時代背景も随分変わってくる可能性もあつてですね、なかなか見通しを付けにくい所もあると思いますが、現段階で想定した中で、過去10年とは随分変わってきており、もっとスピード感が早くなると思いますけども、その辺も含めて何かご意見等あれば、お願いしたいと思います。

(菅川委員)

新規不登校者の減少について、30年度に22人いて、元年に15人、どういう風に捉えればいいのか。減ったのは卒業したから減ったのか。

藤田(学校指導係)

新規不登校者の減少といいながら、数字が現状そのまま、30年22人います。令和元年の7月末で15人いますということです。減ったのは言われるように中学校3年生が卒業していった中に不

登校の子はいました。それまで不登校だったんだけど、今年になって来れるようになったという子もあります。不登校の定義というのが、年間30日以上欠席ということになっている。5月と11月くらいが増えているので、まだこの時点では見えないのですが、今年になって新しく30日を超えて不登校という風に県に報告した数字としては一人だけ。新規の子は減ってきている。スクールソーシャルワーカーとかスクールカウンセラーこれはかなりいい働きをしていただいております。特に今年はスクールソーシャルワーカー、子どもの現状、家庭の現状を見ながら教育委員会とか福祉課とか専門部局とか繋ぐ役の方がかなり活躍をしてくださっていると思いますし、学校の先生方も自分で関わるのではなく、そういう所へ直ぐに繋いでいこうと、チームで動いていこうという意識が高まってきていると思います。

(町長)

そういう人の配置はどうなっているのか

藤田 (学校指導係)

いまスクールソーシャルワーカーは県から1名、千代田中学校に配置があります。千代田中学校区の小学校へは出向いて行っていただくことはできるんですが、年間550時間という縛りがあり、かなり前半活躍していただいたので、後半来ていただくことが難しくなるかもしれないくらい、ニーズの高いポジションにあります。

(町長)

県からということは、その人がもう少し広いエリアを管轄されていることになるのか。北広島町だけではなくて。

藤田 (学校指導係)

その方は、スクールソーシャルワーカーとしては、千代田中学校区となっています。県内で今年30名くらいおられます。全校配置ということにはなっていません。スクールカウンセラーは今年から全校配置になりました。学校規模によって時間が制約され、希望の人数の少ない学校だと年間18時間くらいしか来ていない現状があります。ただもの凄くニーズが高まっておりまして、次また話を聞きたい、予約をしたいとしても2ヵ月先になりますとか、そこが力をいれていくべきところかと感じております。

(町長)

力を入れていくといっても、そういう人がいてくれないと。

(菅川委員)

不登校の子供の実態の中で、要因というのかなかなか掴みにくいだけけれども、家庭状況というのか。

藤田 (学校指導係)

ほぼ、それがほとんどです。学力がしんどくてついていけなく、対人的なものもあります。いじ

めというか、人間関係をうまく作れないという子が引け目でというのがありますが、家庭環境、保護者の意向を汲んでしまっているという子が増えてきている。中には本人は行きたいのに、おうちの人が行かせないというケースもあったりする。

(町長)

家の人がいかせないの。

藤田 (学校指導係)

行ったら、またうまくいかない、いじめられるから行かなくてもいい。そこが学校としても保証できるのか、うちの子に何かあったら、責任とれるのかと言われることもある。話が出来ない家庭も結構ある。町として市として雇う、また多いところで3人くらい雇っている所もある。学校だけ、担任だけでは見とれない、対子供ならいいが、家庭の問題、福祉的な案件になってくるとなかなかそれを見抜く力がなく、福祉の専門家に入っていただくことで、アドバイスがいただける。家庭の問題が多様化している中で、重要なポジションだと認識している。

(長田委員)

文科省の研修があって行かせていただき、データのみにみても人間力を付けなさい、受け身ではなく能動的な人間をどう作るのか。都市に人が集まるのはあたりまえ。循環してこっちに帰ってきてもらうことが大切。帰ってくる教育をしていかないといけない。何かポイントに力を入れて、教育全般ですから、皆網羅すれば、羅列する感じになる。何か特徴を。北広島町の計画ではここがポイントだと明確にするべき。小学校の子供ではなく大人に教えなければいけないことになっている。

ポイントが見えた方がいいと思う。AIとかIOTとか、おそらく人間がいなくなるだろうという本がベストセラーになっているが、私はありえないと思っている。やっぱり人間が主になってくる。高度な人間、質の高い人間しかいなくなる。その差がどんどんでてる。それに外国人労働者が増えてくる。日本人が振られる時代になってくる。

(益田委員)

ICT教育が入ってくる。今回の現状及び課題の中にはICT課題についてはまとめてないが、おそらく大きな柱になってくると思います。ICT教育はハード、ソフトにしてもお金がかかる。これを整備していくためには、町としても考えていかないといけない。ICT教育の充実については予算を組んでいると聞いておりますが、早くから考えてやらないと、他に遅れをとると思われる。先日、小学校で英語の授業を見させていただいたが、電子黒板、パソコン、タブレットも充実させていかなければいけない。義務教育の方向性の中には、これからの10年では避けては通れない大きな中心的な課題であると思われる。

(町長)

どうしてもある程度身に付けておかないといけない部分もあったり、考える力、新しいものを発想していくという意味でも、そういう教育は必要だという気がする。

(益田委員)

プログラミング教育とか小学校の1年生の時からやっていくような時代になることは間違いない。教育機器がないことには、実際問題できないことから充実していく必要がある。

(長田委員)

ネット環境です。端末をいくらそろえても本幹がしっかりしていないといけない。国もしないと、ただ末端にばかり言っても難しい。

(町長)

小中学校にはイントラネット、光が直接入っている。きたひろネットとは別に整備してある。

(石坪学校教育課長)

学校と各支所、公共施設、図書館とかいうところまではいっている。

(菅川委員)

10年で①②は10年前に比べたらすごく良くなってきている。マンネリ化とかさらに伸ばしていくことも継続していくことも難しい。子供の減少のこともあり、そのあたりも大きな課題。陸上競技会に出た時の、子供たちの姿勢も違う。上を見ればとどまる所はない。

(町長)

ICT関連の情報化は今より断然進んでいくだろう。ひとつの項目としては考えていかなければいけない。子供の減少についても考えていく必要がある。特別支援教育の発達障害が非常に増えてきているその辺の対策、ソーシャルワーカーで解決するのであれば、先生方の負担が減ったり、環境が整ったりするのであれば、真剣に考えていく必要がある。

(教育長)

発達障害という言葉でひとくくりにはいけないが、特別支援教育も含めて、かなり今の学校の教育活動の困難さのウエイトが高い。その辺もこの中に盛り込んでいたり、町の教育長間レベルでは総合教育会議が盛り上がらないという所があるが、うちは教育委員さん、町長の意見も結構交わしていただき、たいへんありがたいと思っている。先日、八重小に町長、副町長、教育委員さんで行っていただいて、学校からすごく喜ばれました。実際に私がいたり、事務局の担当が行くのは当たり前ですが、学校は町長さんや副町長さんにも見てもらいたいというのがあり、そういう中で、学校ICTもやっていかなければいけないと思ってもらえれば非常にありがたい。この前、県の研修会で平川教育長の言葉ですごく感動した言葉があります。KKDではいけない。経験と勘と度胸。

(町長)

国の方も何年度までにこういう環境を整えなさいという指針を作っている。国も何割かを支援します。交付税措置だと思います。そういうのを計画的に。

(石坪学校教育課長)

今回の計画の中にそういうことを盛り込んでいこうと思っております。

(町長)

具体的にするには、何年度にやっていくと計画を作ってやってんだか、タブレットを一人ひとつ持たしても4年ごとに更新していく必要がある。これも一度入れれば終わりではなく大変。そういう環境を維持していくのは経費もかかる。

(石坪学校教育課長)

来年度、児童生徒の授業用パソコンを更新の時期にきているので、そこである程度タブレットというようなものに変えていくとか、あるいはパソコンでもそれを含めたものに変えていくということも含めて検討していく必要がある。

(副町長)

ここにはないのは、最近大きくなってきていると思うのは、貧困対策。貧困が貧困を生む。それが子供の教育に響いている。子供対策としてなんらかのことを考えていく必要がある。格差が生まれなくなるような時代が来るよう、備考欄にでも入れてあげたい。

(益田委員)

貧困や親の教育放棄、食事を作らない、そういう問題ですよ。

(長田委員)

国が働き方改革、教育改革、外国人の受け入れ拡大も入れている。皆法制化しているので、今までの10年より今後の方が大変なことになる。今の教育の問題でも人数が減っており先生の言葉が生徒に聞こえていない。8Kも4Kもいいが、音をどう伝えていくか、教室にスピーカーを付けるとか、そういう動きも出てきている。クオリティを上げましょうということだと思います。

(町長)

現実に遠隔授業はできます。すでに早いところはやっている。臨場感溢れる環境ができる。

幼児教育の重要性が昔から言われている。いま福祉課が幼児教育というよりも保育の方から入ってきており、その延長線上にきている。もっと教育という立場で言うところの意味、教育委員会という方がいいのかもしれない。広島県の幼児教育の計画についてもかなりつつこんだ計画を作成している。幼児教育の観点からいくと教育委員会の範疇で行うのがいい。

(教育長)

北広島町の場合は、学校教育の部分と福祉課が持っている保育所とのつながりが悪いと思います。特に小学校一年生に入学してくる子供のところにもう少し介入しあわなければならない部分もある。

(町長)

いまでもある程度の連携はあるが、もう少し突っ込んでいくと、教育委員会の方がある程度、幼

児教育もテリトリーの中に入れていかなければ難しいと感じている。

いまのこども園では保育所と幼稚園を兼ね備えている。

(石坪学校教育課長)

義務教育の方向性について、若干説明をさせていただいて、またご意見があればお願いします。

藤田 (学校指導係)

予測不可能な時代になってきている。子供たちも今までみたいに受け身で言われたことをこなすだけでは太刀打ちできない時代になってきている。能動性であったり、前向きさたくましさ、多様な人々と協働しながら課題解決していく力が試されていく。ここらが求められていく。

1番は体、徳、知で北広島の子どもを育むです。知徳体が一般的であるが、体を先にもってきている。健やかな体には健全は心が宿る。たくましさ、打たれ強さを助成していく必要がある。2番豊かな心 ふるさとを愛し、自らの人生を豊かに生きる子の育成です。柱になるのは北広島「夢プロジェクト」です。地域社会の未来を子供たちにみせないところには帰ってこない。帰ってきた時にこういう可能性がこの町にはあるということがわかるから帰ってこれると思う。地域社会を時間軸でみせる体験活動が必要。命を大切に。交通安全教育、防災教育、防犯教育に努めていく必要がある。3番の確かな学力の育成 基礎・基本をもとに、未知の問題を解決できる力について、自分が身につけたものを元に応用してどう使っていくか、子どもたちを育成していかなければいけない。そのために、思考力、判断力、表現力を育成していく。自分の思いをアウトプットしていく。情報及び ICT 活用能力について、英語力、言語力などの育成も含め、グローバル化に対応できる北広島っ子を育てることが必要と考える。2番の学校と行政と地域が一体となって、北広島の学びの場を支える、そのためには教員が主体的に学ぶ良さを実感しないといけない。特別支援教育の充実、幼児教育から中等教育の連携も大切なこと。(2) 地域・保護者と協力して学びの場を充実させる。学びの場の広がり的大事。多様な人々と協働しながら課題解決していく力を育成していかなければならない。教室を地域に広げる、先生を地域の人にまで広げる、教材を地域の人やモノに広げることによってカバーできる。だからこそ地域との連携が必要。家庭教育の充実、家庭との連携も大事。3番目の行政が学びの場を支える。学校規模の適切化、コミュニティ・スクールの推進を掲げております。以上です。

(町長)

これは今後委員会の中で議論があるのか。

(石坪学校教育課長)

これについては、来月検討委員会がありますので、その中で議論をしていただく。12月に計画の素案ができますので、1月か2月にこの総合教育会議の中でご説明をさせていただいて、意見をいただきたい。その後検討委員会の中で検討する形をとります。

(長田委員)

今後の中で、モニターにしても何にしても、価格が下がってきている。国が方針を出したときにいかにスピードアップしてやるか、特にいい教育をするために予算付けも大切。是非とも進めてい

ただきたい。

(町長)

それでは、今日のところは終わりたいと思います。

(石坪学校教育課長)

1月頃に再度この教育総合会議を開催していきます。義務教育の方向性について、ご意見等ありましたら、教育委員会の方をお願いします。

○閉会